

## 第4回「放射線テロ・放射線災害対策担当者養成講習会」

(救命・救急医、産業医及び放射線災害対策担当者が知っておくべきこと)

(1級認定コース・日医生涯教育制度5単位認定 申請中)

主催:NPO 法人 NBCR 対策推進機構

後援:公益社団法人 日本医師会(申請中)

### 開講のご案内

2020年(平成32年)の東京オリンピック開催も決まり、最近の国内外のテロ対策の動向も踏まえ放射性物質等による放射線災害対策の重要性が認識されております。

この度、弊機構は事業の一環として、平成29年9月に実施致しました第3回「放射線テロ・放射線災害担当者養成講習会(1級認定書付与)」に引き続き、別紙のとおり第4回「放射線テロ・放射線災害対策担当者養成講習会(救命・救急医、産業医及び放射線災害対策担当者が知っておくべきこと)」を開講することと致しました。

現代社会では、放射線は広く使われています。自動車のダッシュボードやシート、タイヤ、水泳用のビート板、お風呂場のマットなどは放射線の電離作用を利用して耐熱性に優れた物質に改質また強度を高めていますし、鉄板、ゴム、食品包装用のラッピングフィルムや紙、アルミ箔などの厚さの測定にも使われています。この様に放射線の線源を保有している工場は多く、盗難を考えれば放射性物質による事故やテロは、何処でも起こり得ると言えます。洞爺湖サミットを3ヶ月後に控えた平成20年4月5日には、千葉県市原市五井の会社でγ線を出すイリジウム192の線源が盗難され、横浜市の滝の川で見つかる、という事件も起きています。

現在世界では、自然災害や人為的災害に起因する原子力発電所の放射線災害の事例に鑑み、また、最近、テロによるダーティボムの使用の可能性や原子力発電所への破壊行為或いは事故等の可能性から放射線災害対策の重要性が指摘されております。特に地震の多い我が国には多くの原子力発電施設があり、放射線災害対策が益々重要になっております。

今回の講習会も、前回同様、日本医師会のご後援を頂き、現在、最も懸念されている1つである放射線テロ・放射線災害について、日本の第一人者の講師の先生方による、内容の濃い講習会で、また、生涯教育制度5単位の認定も頂ける、真に役立つ専門コースと致しました。ご多忙中の折柄誠に恐縮に存じますが、奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

平成30年5月吉日

NPO 法人 NBCR 対策推進機構

会長 片山虎之助

理事長 井上忠雄



**第4回「放射線テロ・放射線災害対策担当者養成講習会」について**  
**—主として救命・救急医・産業医及び放射線災害対策担当者が知っておくべきこと—**

主催 NPO 法人 NBCR 対策推進機構  
後援 公益社団法人日本医師会

■趣旨

2020年(平成32年)東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定しました。ポストンマラソン爆破事件や過去のオリンピック時に生じたテロ事件等を考えると安全・安心を確保して東京オリンピックを成功させるためには官民挙げてテロ対策等の予防に万全を期さねばなりません。また、最近では放射性物質の散布等によるテロ災害等が懸念されており、爆弾テロ等では、必ず放射性物質の存在の有無がチェックされます。日本では、福島原発事故等で経験したように放射線障害対策の重要性が指摘されております。放射性物質による災害でも、他のCBE災害と同様に、予防や生じた場合の検知・警報、防護、除染、医学的措置の中でも特に医学的対応が重視されます。

平素から放射線テロや放射線災害に対する関連情報を収集・評価し、物的・人的措置を講じ、教育・訓練を行い、標的化を防止して適切な対応力を養成しておくことが重要です。放射線被ばくや放射性物質の汚染で、即死することはありません。また放射線は、BやCに比べて検出技術は進んでおり、現場での測定も可能です。正しい知識と測定機器があれば、汚染があっても直ぐに生命に関わる外傷や疾病の治療を安全に行うことができます。最新の情報・経験を踏まえてテロを含む放射線災害対策等を見直し、各種の厳しい現実を想定した訓練・講習を実施する必要があります。

今回、新しい視点からの現在日本の第1人者としてご活躍中の新進の講師を迎え「放射線テロ・放射線災害対策担当者養成講習会」を下記の通り開催いたします。今回の講習会は放射線テロ・放射線災害対処に特化した第1級の危機管理コースです。

■講習対象者

救命・救急医、産業医、病院等医療危機管理担当者、保健所職員、消防関係職員、企業危機管理担当者、自治体危機管理関係者、その他講習研修を更新の希望者

■認定カード発行

講習修了時認定試験を行い「放射線テロ・放射線災害危機管理者認定カード(1級)」を発行し当機構での認証を行います。

■講習会日時

日時	受付締切	定員
平成30年7月22日(日曜) 09:00~17:00	7月13日(金)	100名

■細部

- ※放射線テロ・放射線災害対策担当者養成講習会カリキュラム 付紙1
- ※申込:「申込書」によりFAXでお申込み下さい。申込書: 付紙2
- ※場所:ヒューリック浅草橋ビル(ヒューリックカンファレンス 3F ルーム1)  
(JR浅草橋西口徒歩1分)講習会場案内図:付紙2  
〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-22-16 TEL03-5822-5971
- ※締切:先着定員になり次第申込を締め切ります。
- ※順延:最小催し人員数15名以下の場合は延期し順延の通知を致します。
- ※費用:3万円(個人正会員:2万円、団体会員:1.5万円)
- ※連絡先:付紙2

■カリキュラム

付紙 1

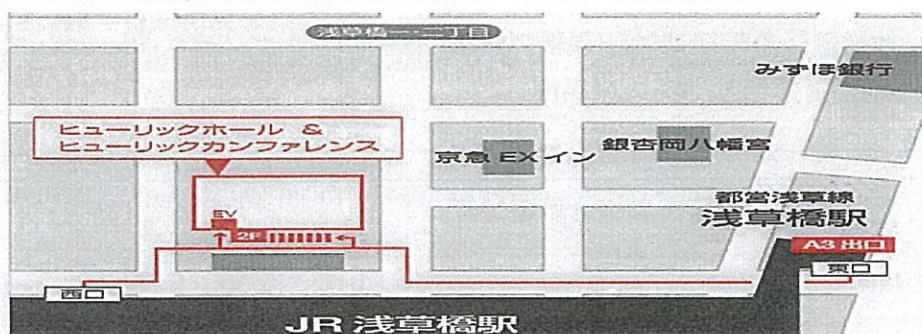
日	時 間	科 目	講 師
7 月 22 日 (日)	09:00~09:10	※オリエンテーション 弊機構理事長 工学博士 井上 忠雄	
	09:10~10:00	1、放射線災害と医療対策 (0.5単位)	公益社団法人 日本医師会常任理事 石川 広己 先生
	10:00~11:00	2、放射線テロにおける放射線防護 (1単位)	国際医療福祉大学クリニック 院長 鈴木 元 先生
	11:00~12:00	3、放射線テロにおける病院での 初期対応 (1単位)	国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 執行役 明石 真言 先生
	12:00~12:50	休	憩 (昼 食)
	12:50~13:40	4、放射線テロにおける放射線被ばく (0.5 単位)	国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 計測線量評価部長 栗原 治 先生
	13:40~13:45	休	憩
	13:45~14:45	5、放射線災害対処防護資機材 (防護服、遮蔽機材、測定器材等) (1単位)	原子力バックエンド推進センター フェロー 澁谷 進 先生
	14:45~15:45	6、放射線緊急時初動対処(現場の対応) —初動対応者として— (1単位)	科学警察研究所法科学第二部 主任研究官 土屋 兼一 先生
	15:45~16:30	7、放射線・テロ災害時の複合傷害対策 (0.5単位)	杏林大学教授 救命救急センター長 山口 芳裕 先生
	16:30~16:35	休	憩
	16:35~16:55	8、※試 験	
16:55~17:00	※「放射線テロ・放射線災害対策担当者養成講習会」修了証付与		
生涯教育:合計5単位			



付紙2 第4回放射線テロ・放射線災害対策担当者養成講習会申込書

申込締切	平成30年7月13日(金)		先着順 100名様
申込先 FAX	03-5829-6197		
申込者(団体名)等			
参加者 氏名 (ふりがな) ご記入は、楷書にて わかりやすくご記入 下さい	氏 名	所 属	職 名
所在地	〒		
連絡先	電話番号:	FAX 番号:	
組織区分 ○でお囲みください	NBCR 対策推進機構 : <u>個人正会員</u> ・ <u>団体会員</u> 日本医師会 : 所属地区名 ( _____ ) 官公所属 : <u>自治体</u> ・ <u>警察</u> ・ <u>消防</u> ・ <u>その他</u>		
要望事項			

- 講習会場案内図 ヒューリック浅草橋ビル3F (ヒューリックカンファレンスルーム 1)  
〒111-0053 東京都台東区浅草橋 1-22-16 TEL: 03-5822-5971



- 連絡先: NBCR 対策推進機構 〒111-0053 東京都台東区浅草橋 2-7-9 大森ビル 2階  
電話 : 03-5829-6187 FAX : 03-5829-6197 e-mail: [nbcn-npo@tea.ocn.ne.jp](mailto:nbcn-npo@tea.ocn.ne.jp)  
担当 : 副理事長 安達佳男、 執行役員:平川 寿夫

機構使用欄	NBCR
-------	------